



# こくろうよなご

第7号

2024年12月10日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

## 待ち受けるのは更なる効率化

### 中国統括本部定期委員会

去る11月12日、国労岡山地方本部事務所にて、「中国統括協議会定期委員会」が開催されました。広島・岡山・米子の各地方本部が参加し、「構造改革」の進む職場実態や組織問題などについて率直に意見を交わしてきました。参加しての感想など、報告したいと思います。

はじめに中国統括本部協議会で議長を務める広島地本佐々木委員長より「全ての職種で構造改革が進んでいる。災害も頻発、ローカル線問題も大きな岐路に立つ中で、外に訴えて行く事が重要だ」など挨拶を受け、来賓として参加頂いた西日本本部大北書記長より「西日本会社の効率化の現状・ローカル線を取り巻く情勢」など、報告を受けてきました。

その後の各地方本部・職場状況の討論では、「効率化に職場が追い付かず様々な問題が発生している」「寝台列車の一人乗務・特急のワンマン化の拡大などにより、働き続けることへの不安が増大している」「転勤の話が出るが、『期限が決まっていれば』となり、問題にならない」「社会人採用者が多く配属され、仕事しながら教育

「グループ単位の所要員が示されず、要員の基準が曖昧になっていく」「教育も詰め込みで、自分たちの時の様に一つづつ経験を積む感じではない」「一年に一回の工臨の入換しなく技術継承にならない」など、安心して働き続けられない職場環境にあることが言われていました。

一方で、「ローカル線廃止で、職場が無くなる」と言っても、転勤したいのでなくなってもいいと言われる。「要員減で仕事はきつくなったが、皆があらかじめ仕事の準備をし、作業ダイヤ通りにする人は要領がよくない感じになる」など、自己解決の気分が強くなっていることも明らかになりました。

「職場が無くなっても、何とか転勤でき

事を回すことが出来ても、その後には、更なる効率化が待ち受けています。

そのことを理解するためにには会社の狙いなど学習し、職場の仲間と一緒に粘り強く運動を展開していく事が必要だと感じました



## あなたの笑顔を守る！

### 福岡守候補がトップ当選！

11月17日、雲南市議会議員選挙があり、米子地方本部推薦の「福岡守」候補が1520票を獲得、見事トップ当選を果されました。

福岡候補は、48歳の若さで市役所を退職、これまでの行政を通じて実践して来た住み良い街づくりをさらに進めるため、市議会議員

への立候補を決意されました。

選挙期間中は、「あなたの笑顔を守る」をキャッチフレーズに、6つの守るとして○日々の暮らしを守る○農林業・環境を守る○働く仲間を守る○子ども・若者の未来を守る○楽しみ・生きがいを守るを訴えてこられました。

雲南市も例に違わず

## 103万円の壁！ほんとに問題なのは何！？

衆議院選挙の結果により少数与党になった自公政権が秋風を送るのが、衆議院選挙で議席を3倍に伸ばした国民民主党なのはご存じのとおりです。そして、その国民民主党が衆議院選挙で強く主張して来た所謂「103万円の壁」が、来年度税制大綱の大きな焦点となっています。

しかし、もし仮に所得が104万円になったからと言って、本人の所得税は500円にしかならず、学生を働かせるための施策になってはいけません。問題は103万円以内であれば扶養控除が受けられる親や配偶者の所得税負担への影響であり、扶養控除の基準の問題でもあります。

一方、最も大きな課題は、106万円・130万円以上で社会保険料（106万円だと年額16.2万円、130万円だと年額19.9万円）が発生することが働き控えの理由でもあり、税をかける最低限基準の見直しこそ課題だとの声もあります。税と保障の問題から目が離せません！

人口減少・過疎化の進行に歯止めをかけることが出来ていません。若い人が住み続けたと思える街づくりに向け、奮闘される福岡候補をこれからもしっかりと支援していかなくてはなりません。

また、木次線の存続の問題についても、市政の抱える重要課題となります。高齢化が進み、免許の返上の増加が予想される中であって、鉄道をはじめとした公共交通の維持・存続に向け、交通関係労働組合として連携しながら取り組みを強化してい



かなければなりません。最後に、福岡候補の当選に向けご尽力いただいた組合員・ご家族の皆様、心より御礼申し上げます。有難うございました。

### 編集後記

元旦の能登半島地震、2日には羽田空港で飛行機の衝突事故が発生するなど、心の痛む出来事でもあった2024年も、あつという間に師走入りだ。春闘では、三十数年ぶりの大幅賃上げと言われるが、歴史的なデフレにより生活の向上もおぼつかない。10月の衆議院選挙では自公与党が過半数割れ、米国ではアメリカーファーストを掲げるトランプ大統領が誕生、ロシアとウクライナの抗争も終結のめども立たない。激動の年が暮れていく。